

第37回日本高齢者大会inあいち と 第33回ゆたかな高齢期を めざす東京のつどいを成功させる 東京実行委員会第7回会議& 第38回日本高齢者大会inさいたま東京実行委員会第1回会議

2025年4月22(火)14:00~16:30 豊島区東部区民事務所

1 本日の主な内容 座長選出

- ・ 2024 年度のまとめ
- ・ 第 38 回日本高齢者大会にちいての報告と東京からの参加体制についての議論
- ・ 各地域、団体の運動交流

2 第37回日本高齢者大会 in あいち と 第33回ゆたかな高齢期を めざす東京のつどいまとめ

- 1) 第37回日本高齢者大会 in あいちは11月22日23日に名古屋を会場に開かれ、Web参加を含めてのべ3100人以上が参加しました。愛知労連をはじめ多くの組織の共同、年金者組合愛知県本部独自の実行委員会、藤井克徳さんの記念講演、全体会での300人の大合唱など学ぶことの多い充実した大会になりました。東京からは現地参加のべ183人、Web28会場220人、個人接続15人、全体でのべ418人が参加し成功に貢献しました。第6講座（医療費ゼロ）第2分科会（地域高齢期運動）の準備、運営を東京高連の役員が中心となって進め、大会の成功を支えました。

2023年第36回日本高齢者大会の第12分科会（地域高齢期運動）は、地域の高齢期運動の幅広い内容を交流する場となりました。その記録を東京高連ブックレットとして発行し、運動の促進の役割を果たしました。

- 2) 第33回東京のつどいは、2月26日立川のたましんRISURUホールで、危機的な状況にある介護の問題を中心とした上野千鶴子さんの記念講演と、地域の取り組みの報告を中心に全体会を行い、参加者から高く評価する感想が多く寄せられました。三多摩高齢期運動連絡会が中心となって三多摩健康友の会を中心に会場地元の団体の強力な取り組みが行われ、会場に約1,000人が参加、Web49接続で大きく成功しました。

2月8日第1分科会「だれもが安心して住み続けられるまちづくり」には、5つの実践の報告発言があり、Web含めて57人以上が参加しました。2月20日第1学習講座「健康で文化的な最低限度の生活を営む権利」が生活保護と年金をテーマに行われ25人が参加しました。3月4日には第2学習講座「ジェンダー・多様性、人権の視点から考える防災」が開かれ、Web含めて24人が参加しました。3月6日には第3学習講座「マイナンバー保険証問題の本質と運動の方向」が行われ、Web含めて当日40人が参加しまし

た。講座、分科会はいずれも充実した内容で好評でしたが、参加組織には課題が残りました。

3 第38回日本高齢者大会中央実委報告

第38回日本高齢者大会 in さいたま

第2回中央実行委員会総会

1 大会開催の意義・目的

戦後80年、国連高齢者年から25年の年にふさわしい、飛躍をつくる大会にしていきたいと思います。
日本高齢者人権宣言を力に、大軍拡、大企業優遇ではなく、社会保障を充実で、すべての年齢の人が安心して希望のもてる社会をつくる、共同を広げる大会にしましょう。

2 スローガン

大会スローガン まちから村からの連帯で ひとりぼっちの高齢者をなくそう

サブスローガン 分断・対立から共感・連帯へ 築こう平和と人の尊厳

3 大会日程・会場

(1)1日目 2025年11月11日(火)

会場 大宮ソニックシティ小ホール・会議室(6会場)・市民ホール会議室(4会場)

①学習講座・分科会 13時00分～16時30分

②移動分科会 13時集合 16時30分をめぐりに各会場で解散

③夜の交流会 17時30分

(2)2日目 2025年11月12日(水)

○全体会 10時30分～13時00分(予定)

会場 大宮ソニックシティ大ホール

4 企画

(1) 全体会

①記念講演 芝田英昭(社会保障研修者・水彩画家・立正大学教授・博士)

②その他の企画 歓迎企画・基調報告・大会旗引継ぎ・特別決議など

(2) 学習講座・分科会・移動分科会・交流会など *企画内容(P5,P6)

5 大会参加目標・参加集約

(1) 参加目標

現地参加者数 2 日間の延べ 3000 人(全体会 1500 人、学習・分科会等 1500 人)

オンライン参加者数 2 日間の延べ 800 人(全体会 500 人、学習・分科会 300 人)

すべての都道府県より代表参加も含めて現地参加をめざします。

(2) 第 1 次参加集約は 9 月 30 日。中央団体・県連を通じて、中央実行委員会(日本高連事務所)に提出すること。

6 大会予算と大会参加費

団体、県連がより参加者を組織するために本大会では 2 点の変更を行います。

1 点は現地参加費に団体・県連への還元をすること、2 点は共同開催の 4 県連がとりくんだ協賛募金に還元するしくみをもつことです。長い高齢者大会の歴史の中で新たな試みです。今大会のとりくみをとおして次回以降の教訓を引きだしていきます。

(1) 参加費について

① 参加費 1日 2500 円 2日 5000 円

各団体から中央実行委員会への参加費の納入 1日 2000 円 2日 4000 円とします。

中央実行委員会に直接申し込む個人は参加費と同額とします。

② オンライン参加費 1日 1000 円 2日 2000 円 各団体から中央実行委員会への納入は同額とします。

(2) 協賛募金

共同開催の東京・埼玉・神奈川・千葉の4県連がとりくんだ募金は 8 割を各県連に還元します。

(3) 学習講座・分科会等の講師料

名誉教授・教授 5万円 / 准教授・弁護士・医師など専門家 3 万円 / 他団体活動家 1 万円 / 日本高連役員・加盟団体役員 無償

上記を原則にしつつ、該当しない場合と諸経費(資料印刷など)は実行委員会で相談の上、判断します。

(4) 実行委員関係宿泊・交通費 実行委員には宿泊費・交通費を実費で支払います。

(5) 大会にかかる諸経費の節減に努めます。

7 実行委員会について

(1) 中央実行委員会

実行委員長 増田 剛(全日本民医連会長)

(筆頭)副委員長 杉澤 隆宣

副委員長 林 泰則 田中 光顕 吉岡 尚志 (日本高連代表委員)

事務局長 畑中 久明(日本高連事務局長)

事務局次長 菅谷 正見(東京高連事務局長)(日本高連次長)佐藤 長世(神奈川高連)(日本高連次長)・寺崎由郎(東海北陸・三重高連)・高橋卓哉(埼玉高連)・(千葉高連)

事務局 全日本民医連・医福連・東京・()・()中央団体に呼び掛ける

実行委員 中央団体・首都圏 4 県連・協力団体より募る

(2) 中央実行委員会の組織体制

4 部局を設け、各部に副実行委員長・事務局次長・事務局を配置する

◇企画部門 責任者 吉岡尚志 副責任者 佐藤長世

*記念講演・文化企画・講座・分科会・交流会・移動分科会の企画具体化

◇宣伝部門 責任者 田中光顕

*ポスター・リーフレット・参加しおり・大会ニュース・報告集

◇当日運営部門 責任者:林泰則) 副責任者 菅谷 正見 事務局(埼玉高連)

*舞台進行・当日要員(受付・交通案内・会場案内)

◇総務部門 畑中事務局長 事務局:野口、鐘ヶ江

*庶務、実行委員会運営、参加集約・会計・渉外・その他

(3)中央実行委員会事務所は日本高齢期運動連絡会事務所におきます。

〒164-0011 東京都中野区中央 5-48-5 シャンボール中野 504

電話・Fax 03-3384-6654 Email nihonkouren@nifty.com

8. 日程

2025.4.19(土) 日本高連定期総会・第2回実行委員会総会

大会企画・予算決定

分科会・学習講座企画・移動分科会・文化企画確定

リーフレット作成

2025.7 第2回実行委員会・事務局全体会議

*当日運営・要員体制*会場と調整

2025.8 参加集約

2025.9 第3回実行委員会・事務局全体会議

*当日運営・要員体制・参加組織

第1次参加集約

2025.10 第4回実行委員会・事務局全体会議

*当日運営・要員体制・参加組織

2025.11 準備

2025.11.11(火)-12(水) 第38回日本高齢者大会 in さいたま

2025.12 第5回実行委員会・事務局全体会議 総括

2026.1 第3回中央実行委員会・第39回大会第1回中央実行委員会

	第38回 日本高齢者大会inさいたま 分科会・学習講座企画案			20250419
	日時:2025年11月11日(火)ー12日(水) / さいたま市 大宮ソニックシティ・ホール			
1日目				
	テーマとねらい案	担当者案	担当団体案	状況
会場(収容数)	特別企画			
小ホール (496人)	前半 特別講演 暉峻淑子「いま豊かさとは何かを問う」 後半 映画「ごぼん」			埼玉映画協会の協力を得て
会場(収容数)	学習講座		企画担当団体案	
会議室606 (104人)	(1) 社会保障の課題・・・(1)社会保障の自己負担をどう考え、減らし、なくすか ・医療、介護の自己負担をどう考えるか？ 社会保障の原点から ・北欧、ヨーロッパ、世界での窓口負担の現状、日本との違い ・老人医療無料制度の再現はできるか。保健予防の必要性、無料制度の意義、価値 (2) 社会保障の課題・・・(2)社会保障の財源は本当にないのか？ ・政府、財界の社会保障への出し惜しみの根拠。大企業の内部留保、富裕層も応分に ・大砲かバターか？軍事費と社会保障との関係			中央社協に相談の上 財政金融委員会で証言
会議室602 (90人)	(3) 憲法25条をめぐる課題・・・(1)年金問題の現状と課題 ・年金制度の問題点、課題と改善の方向 ・女性の低年金問題。 ・最低保障年金制度の必要性和求められる運動		吉岡	年金者組合木田書記長と相談
	(4) 憲法25条をめぐる課題・・・(2)生活保護の闘いの意義と現段階 ・生活保護はくらしの基本、いのちの裁判の意義 ・桐生のまちの生保行政の問題。生保行政の現在地。	吉岡	全生連	
市民ホール401 (90人)	(5) 平和、核なき世界をどう実現していくか ・核の恐怖・・・米の対中国シフトに日本を巻き込む戦争と大軍拡の危険(全体会) ・敗戦から80年・・・戦争、語り継ぐ意義。広島、沖縄、東京(ここで) ・ (7) 高齢者の就労と求められる対策 ・高齢者の就労にまつわる問題、労働問題。 ・就労をめぐる問題 ・高齢者と若者の分断、仕事の奪い合い。高齢者と若者がどう連帯できるか。		母親	高校生平和大使、青年の平和運動、語り継ぐ運動など平和委員会等の相談する。
		安藤	建交労	菅谷が全労連に相談
会議室604 (78人)	(9) 原発問題・・・福島原発問題を中心に		福島高連	講座か、交流会かなど福島と相談
	(10)「発言の無責任さにならされるな」	松本		トランプ、立花、SNSなどのフェイク情報の氾濫の中でどう軸を作るか

会場(収容数)	分科会		企画担当団体案	
会議室601 (78人)	①国民の人権問題～高齢者とジェンダー問題を中心に ・国連人権委員会の高齢者の人権をめぐる議論 ・日本でのとりくみ・・・独立した機関を作る、国連へのレポート作成・提出等 ・日本高齢者人権宣言をどう広げるか、どう生かすか	寺崎		寺崎さんに企画依頼中
市民ホール402 (111人)	②高齢期の生活実態と地域の高齢期運動をどう前進させるか、活動交流 ・住み続けられるまちづくりの取り組みの交流 ・高齢期運動をどう進めるか？		日本高齢期	
市民ホール403 (111人)	③介護問題・・・国民がこれだけ負担しているのに国民の介護と家族がアブナイ ・深刻な介護問題・・・介護をめぐる問題。国民、事業所、ヘルパー不足 ・要介護者の深刻な実態の報告 ・介護保険の改悪案とたたかいの現状と課題	林	民医連	林さんと打ち合わせの上、依頼
市民ホール404 (90人)	④後期高齢者医療制度のあり方～制度の問題点と不服審査運動の交流 ・後期高齢者医療制度そのものの問題と3割負担。国保との関わり。			中央社保協に相談の上 組織強化と連携した取り組みの交流
会議室605 (66人)	⑤ 短歌	横井		東京、埼玉の歌人協会に依頼
会議室603 (90人)	(6) 難聴と補聴器への補助獲得の運動 ・補助獲得の運動の到達点と交流	入月	東京高連	運動が前進し、運動の成果を 比較し、さらに先進的に運動を 切り開ける可能性がある。
会議室603 (90人)	(8) 誰もが移動できる権利 ・移動に関する権利 ・都市の問題、過疎地の問題 ・孤立との関係		大阪高連？	各地の運動の交流を中心に
	△ SNSをつなかりに生かす講座 初歩から実用まで、詐欺など留意点、若者の協力で			
	△ 歯科			保団連に意見を聞く(吉岡、畑中)
移動分科会				
	(1)稲作農家との現地での交流(食と農)			生協、農民連などと折衝予定
	(2)戦跡ツアー(埼玉、東京、神奈川可能か)			
	(3)新都心から造幣局へ			

交流企画				
	○全国盆踊り大会(夜のイベント) 東京音頭、河内音頭、郡上踊り、東北			会場必要
	○健康マーじゃん大会 我と思う人が集う。来年からは各地で勝ち抜き戦をへて			会場必要
	○高齢者向けスポーツの紹介 ボッチャ、エスキーツ、			会場必要
	○うたごえ(よるの交流会)			会場必要
物産展	○物産展・・・12日のみ。			
2日目				
会場(収容数)	全体会			
大ホール (2505人)	記念講演 芝田英昭氏 500人のシニア合唱(学生の参加は?) 1分間スピーチ			

4 東京からの参加と実行委員会体制

1) 参加

(1) 目標 11月12日の全体会に東京から1000人の参加をめざす

11月11日の講座・分科会にも積極的に参加する

団体、地域で Web 会場を設置する場合は集会的な運営を行う

年齢間分断をあおる思想攻撃をはね返し、青年、現役労働者と高齢者の間での共感を取り戻し、連帯してアメリカ言いなりの大軍拡、大企業富裕層優遇、医療介護はじめ社会保障の急速な破壊にストップをかける運動を大きく前進させることをめざし、学び、交流し、決起する場として、第38回大会をぜひ成功させましょう。

(2) 東京実委として宿泊は設定しない

(3) 団体地域で目標を持って参加を組織することを呼びかける

* 2025年度は、高齢者大会に集中し、東京のつどいは行わない。

2) 受付の仕方

従来は、団体地域で参加者をまとめて申込書を東京実委に送り、東京実行委員会から事前にしおりと参加証を送り返していたが、今回は宿泊や列車の予約などを行わないため、東京のつどいと同じチケット方式にし、11日券、12日券を発行し、両日とも会場の東京受付でしおりと参加証を渡す方式に出来ないでしょうか。

住所を含む参加者リストを作成し、事前発送を行うことにかかる郵送費と作業の負担とを削減することが狙いです。ご検討下さい。

3) 参加費・財政

(1) 会場参加費 2,500 円のうち 500 円が還元されるので、東京実委分担金 500 円は集金しない、Web 参加も 1,000 円の参加費だけ集金するという事で財政が成り立つか試算するという方向でどうか。

(2) 団体地域には、参加に向けての財政活動、団体財政からの援助、参加のためのバスを出すなど財政上の検討を早期に行うことを呼びかける。

(3) 「しおり」への協賛広告を都内の各団体に広く呼びかける

4) プレ集会など、事前・事後の取り組み

11月の第38回日本高齢者大会に向けた運動の節として、高齢者大会を広く知らせ、機運を盛り上げることをねらって、秋口に東京としてのプレ集会を行うなど、大会に向けての東京段階の取り組みについて、意見を出し合ひましょう。

5) 東京実行委員会の体制

(1) 役員

実行委員長 千野 律子（東京高齢期運動連絡会会長）

事務局長 菅谷 正見（東京高齢期運動連絡会事務局長）

事務局体制 東京高齢期運動連絡会事務局＋参加を求める

実行委員会には、東京高齢期運動連絡会未加盟にも参加を呼びかける

(2) 実行委員会への協力メンバー

企画分野では、2023 年東京大会以来企画担当の事務局として活動に参加しているメンバーが活動を開始しています。東京実行委員会は、要員組織、設営、配信などの当日運営、複数の分科会の組織、運営などにも東京は力を出さねばなりません。実行委員会の実務に協力していただくメンバーを広く募ります。

(3) 実行委員会日程

第2回会議 6／24（火）

第3回会議 8／26（火）

第4回会議 10／28（火）

第5回会議 12／23（火）

（第6回会議 2／24（火））

いずれも 14:00～16:30

会場は、その都度お知らせします

6) そのほか

5 団体地域交流